

【演題名】 idra による非侵襲的涙液層破壊時間とフルオレセイン染色による涙液層破壊時間との比較

【英文タイトル】

Non-invasive tear film break-up time using idra and fluorescein break-up time

【ショートタイトル】 -

idra の NIBUT とフルオレセイン BUT

福岡詩麻 1,3,4、有田玲子 2,3,4

1. 大宮はまだ眼科西口分院, 2.伊藤医院, 3. LIME 研究会、4.東京大

【目的】涙液安定性の評価方法としては、涙液層破壊時間(tear film break-up time, BUT)がある。フルオレセイン染色を用いた BUT (BUT with fluorescein, FBUT)が臨床で広く用いられているが、染色することなく非侵襲的に BUT (non-invasive BUT, NIBUT)の測定ができる装置も複数ある。今回、NIBUT の自動測定が可能である idra (SBM 社)を、FBUT と比較検討した。

【対象と方法】対象は、2020 年 1～9 月に伊藤医院にて、idra と細隙灯顕微鏡にて検査を受けた 32 例 64 眼のうち、idra での測定不能な 2 眼を除外した 31 例 62 眼(男性 8 例、女性 23 例、平均年齢 59.9 ± 16.2 歳)である。ストップウォッチを用いた FBUT 測定結果と、idra による自動測定で得られた最も早期の値である NIBUT first、全測定範囲の平均である NIBUT average の値とを比較した。

【結果】BUT の平均値±標準偏差 (最小値、最大値)は、FBUT 4.2 ± 1.3 (3, 10)秒、idra による NIBUT first 3.8 ± 0.9 (2.6, 5.9)秒、NIBUT average 6.1 ± 1.7 (3.8, 10.4)秒であった。FBUT と NIBUT first の平均値には有意差を認めなかった($p = 0.17$)が、NIBUT average とは有意差を認めた($p < 0.001$)。FBUT と idra による NIBUT first と average の相関係数は、いずれも $\rho = 0.39$ (各 $p = 0.002$)であった。

【結論】idra による NIBUT 測定値は、FBUT と相関がみられた。